

宮城県登米地域

重点プロジェクト① 持続可能な森林資源の育成とFM認証材の増産と安定供給

将来的な森林資源確保に向けた再造林推進の取組

～ 単木防除技術の実証を通して拡大するニホンジカ被害に適切に対応し、再造林を推進する ～

【現状と課題】

登米地域の人工林は、スギを中心として、大部分が7齢級以上の利用期に達しており、その収穫によって木材の安定供給に努める必要があるとともに、将来的な木材資源を確保するためには、再造林の推進が必要不可欠である。

その一方、近年当地域ではニホンジカによる苗木の食害が深刻化しており、急傾斜かつ表土が薄く基岩が露出しやすい当地域の現場条件を踏まえ、適切な被害防除技術の実証と併せた低コスト再造林を進める必要がある。

【取組概要】

一般的な防鹿柵については、急傾斜の現場が多い当地域では施工が困難である上、部分的な破損により壊滅的な被害を受ける可能性があるため、スギコンテナ苗(秋季植栽)の単木防除資材による防除効果と植栽後の下刈り省略による植栽木の成長への影響調査を行うことを目的として令和2年度から調査を開始し、令和4年度までに1.30haの調査区を整備した。

【取組の効果・成果】

防除対策無しの調査区では約8割の植栽木がニホンジカによる食害を受けたため、全面的な補植を行うとともに、新たに防鹿柵設置区とカラマツ生育調査区を設置した。

一方、単木防除資材を設置した調査区では設置後2年経過した時点において、被害は確認されていない。さらに、下刈りを実施していない調査区において、植栽木は順調に成長していることから、下刈り省略による低コスト化の可能性が示唆された。

【取組が進んだ要因】

ニホンジカの被害が急増し、再造林を進める上で、緊急に解決すべき課題として、会員間で一致した認識であることが取組が進んだ要因として挙げられる。

継続調査中だが、単木防除資材の食害に対する防除効果に加えて、下刈り省略や、植栽木の成長に与える影響についても併せて検証し、低密度造林と組み合わせることで、今後、ニホンジカ被害地における更なる低コスト再造林の一つのモデルケースになるものと期待している。また、植栽面積が増加傾向にあるカラマツに対するニホンジカの被害状況の検証についても進めていく。



図1 調査区内で撮影されたニホンジカ



図2 資材設置の効果調査の状況



図3 令和5年1月時点の実証調査区

担当者: 登米市森林管理協議会 会員
津山町森林組合 森林整備課長
佐々木寿光
メール: tsuyama-sinrin@rapid.ocn.ne.jp
電話: 0220-68-3052